

【2019年度第1学年、
2020年度第1・2学年用】
3分野の指導計画
(2学期制用)

■ 移行措置への対応について

右の指導計画のうち、太線で囲まれている部分が、移行措置に伴って学習時期や配当時数を変更した箇所です。変更のポイントは以下のとおりです。

【地理】

- ・授業時数が全体で5時間減少し、115時間となります。
- ・授業時数の減少に伴い、1編4章「世界のさまざまな地域の調査」が扱われなくなります。
- ・2編1章「日本の姿」を、1年生の冒頭で、1編1章「世界の姿」に続いて扱うこととなります。

【歴史】

- ・授業時数が全体で5時間増加し、135時間となります。
- ・新学習指導要領で新たに加わった世界史に関する内容の一部を、前倒しで扱うこととなります。具体的には次の2点で対応が必要です。

- (1) 3章②で「元寇がユーラシアの変化の中で起こったこと」、またその「ユーラシアの変化」として「モンゴル帝国の拡大によるユーラシアの結び付き」を扱うこととなります。その対応のため、配当時数を1時間増やしています。具体的には、教科書77ページの「歴史にアクセス ユーラシア世界史の誕生」を活用することなどが考えられます。
- (2) 4章①で「ヨーロッパ人來航の背景」として「アジアの交易の状況やムスリム商人などの役割と世界の結び付き」を扱うこととなります。その対応のため、配当時数を1時間増やしています。具体的には、教科書136～137ページの「深めよう 歴史の中のイスラム文化」を活用することなどが考えられます。

なお、移行措置では(1)(2)のほかに「ギリシャ・ローマの文明」や「市民革命」に関わる内容についても前倒しで扱うことが求められておりますが、現行の教科書と指導計画で対応が可能です。

第1学年(105時間)			
月	時	地理	歴史
4月	6	地理学習の初めに 1編1章 世界の姿	
		2編1章 日本 <small>の姿</small>	
5月	12	1編2章 世界各地の 人々の生活と 環境	
6月	12		歴史学習の初めに 1 1章 歴史の流れを とらえよう 6 2章 古代までの日本 導入 1 ① 5 ② 3 ③(前半) 5
7月	6		③(後半) 3 まとめ 2 身近な地域の歴史 6
9月	12		
評価などの予備時間			3
10月	12	1編3章 世界の諸地域 ① 7 ② 5 ③ 4 ④ 5 ⑤ 4 ⑥ 4	
11月	12		
12月	9		3章 中世の日本 導入 1 ① 5 ② 7 まとめ 2
1月	9		
2月	12		
3月	3		
評価などの予備時間			2
合計		地理 (53)	歴史 (47)
評価などの予備時間			5

第2学年(105時間)			
月	時	地理	歴史
4月	6		4章 近世の日本 導入 1 ① 8 ② 4 ③ 7 まとめ 2
5月	12		
6月	12	2編2章 世界から見た 日本の姿 ① 6 ② 2 ③ 5 ④ 2	
7月	6		2編3章 日本の諸地域 ① 5
9月	12		
評価などの予備時間			6
10月	12	② 5 ③ 5 ④ 5 ⑤ 5 ⑥ 5 ⑦ 5	
11月	12	2編4章 身近な地域の 調査 7	
12月	9		5章 開国と近代日本 の歩み 導入 1 ① 8 ② 8
1月	9		
2月	12		
3月	3		
評価などの予備時間			3
合計		地理 (57)	歴史 (39)
評価などの予備時間			9

第3学年(140時間)			
月	時	歴史	
4月	8	③ まとめ	6 2
5月	15	6章 二度の世界大戦と日本 導入 ① ② ③ まとめ	1 7 5 4 2
6月	17	7章 現代の日本と世界 導入 ① ② まとめ	1 8 3 2
公民			
7月	8	公民学習の初めに 1章 現代社会と私たちの生活 導入 ① ② ③ まとめ	1 4 3 4 1
9月	15	2章 個人の尊重と日本国憲法 導入 ①	1 4
評価などの予備時間			3
10月	17	② ③ まとめ 3章 現代の民主政治と社会 導入 ① ② ③ まとめ	7 3 1 1 5 10 5 1
11月	15	4章 私たちの暮らしと経済 導入 ① ② ③ ④ ⑤ まとめ	1 4 4 5 3 1
12月	12	5章 地球社会と私たち 導入 ① ② ③ まとめ	1 4 5 5 1
1月	12	終章 より良い社会を目指して	5
2月	16		
3月	5		
評価などの予備時間			1
合計		歴史 (41) 公民 (95)	
評価などの予備時間			4